

令和5年度指定管理者評価シート

1. 管理運営の状況等

| | |
|---------------|---|
| (1)施設名 | さいたま市年輪荘 |
| (2)施設概要 | <p>①所在地 さいたま市緑区大字中尾1404番地</p> <p>②施設の設置目的 老人福祉法に規定する基本理念に基づき、養護老人ホームの利用者の健康で安らかな生活の向上に寄与し、福祉の増進を図るための施設。</p> <p>③施設の概要 ・開設年月日 昭和42年6月 (平成4年5月全面改築、平成21年3月改修工事、令和3年11月～令和5年3月中規模修繕工事) * 平成4年5月～ デイサービスセンター事業開始 * 令和5年4月～ デイサービスセンター事業廃止 ・延床面積 2,171.52㎡ ・構造 鉄筋コンクリート造 2階建</p> <p>④事業内容 ・養護老人ホームに関する事業(定員50人)</p> |
| (3)指定管理者 | 社会福祉法人 埼玉県共済会 |
| (4)指定期間、指定管理料 | <p>①指定期間 令和2年4月1日～令和7年3月31日</p> <p>②指定管理料(直近3か年) 令和3年度 20,407千円 令和4年度 20,138千円 令和5年度 17,000千円</p> |
| (5)施設の管理運営の内容 | <p>①運営業務の状況(利用状況含む) ◇利用状況 ・養護老人ホーム 平均入所者数及び稼働率 44.5人 89% (前年度41.2人 82%) 延べ短期入所利用者数 1,526人(前年度614人)</p> <p>◇業務実施状況 基本理念・基本方針に基づき入所者の立場に立った支援や目標である生きがい支援を取り入れる為に、入所者の良いところや可能性を導き出すための勉強会を実施し、入所者の個別処遇計画に結び付け支援に努めました。感染症対策につきましては、安全対策委員会にて取り決め、マニュアル見直しを随時行い、新しい生活様式を取り入れながら予防に努めてまいりました。その結果、今年度は感染者を発症することなく運営することができました。入所措置につきましては、介護ニーズというだけでは解決できない経済的困窮者や精神疾患、虐待ケース等の重複した様々な問題を抱えた高齢者の受け入れ体制を整え、専門職を配置し見守り支援をおこないながらセーフティーネットとしての機能を果たし、入所者が自立した生活を送れるよう、自立支援及び介護予防の維持に努めました。</p> <p>②維持管理業務の状況 施設管理業務計画書を基にスケジュール調整し建築設備、昇降機、自動ドア、消防設備、機械設備、給排水設備等の法定、定期点検の実施を行いました。また、居室や厨房などへの消毒や館内の床清掃を定期的に行い、安全な生活が維持できるよう努めました。</p> |

| | |
|--|--|
| | <p>③その他の業務(自主事業等)</p> <p>4月 花祭り、親睦会総会 5月 誕生会</p> <p>7月 七夕、誕生会、暑気払いランチ、防災訓練、健康診断</p> <p>8月 夏祭り 9月 敬老会、創作作品展、誕生会</p> <p>10月 さんま焼き大会 11月 防災訓練、誕生会</p> <p>12月 クリスマス会 1月 誕生会、新年会</p> <p>2月 節分 3月 花見、誕生会</p> <p>・各種教室(陶芸、俳句) ・クラブ活動(園芸、習字、カラオケ)</p> <p>・ボランティア(大正琴、折り紙、チャレンジスクール)</p> |
| (6)収支状況 | <p>①収入</p> <p>・措置費収入 122,952千円(前年度 111,567千円)</p> <p>・指定管理料収入 17,000千円(前年度 20,138千円)</p> <p>・その他収入 6,234千円(前年度 7,099千円)</p> <p>②支出</p> <p>・人件費支出 85,900千円(前年度 83,299千円)</p> <p>・事業費支出 32,812千円(前年度 34,818千円)</p> <p>・事務費支出 17,098千円(前年度 21,485千円)</p> <p>・その他支出 8,204千円(前年度 1,662千円)</p> |
| (7)利用者アンケート等による 市民からの意見・要望等への 対応 | <p>(7) 入所者アンケート調査(年1回5月)、入所者主体の親睦会(年6回偶数月)、各寮ごとの懇話会(年2回6月、11月)、ご意見箱の設置などから意見や要望等を確認し、検討及び協議した結果を速やかに館内掲示と口頭説明を行い対応しました。今回の主な要望では、感染予防のため外出の回数や時間に制限を設けていることから、買い物と思うようにできないことへの対応として、送迎車で普段行けない店への買い物ツアーを実施したり、移動販売車に来ていただくなど、多くの機会を設けました。また、外出の機会が減ったことから、ストレス解消の場として旧デイサービスのホールを開放し、卓球やバドミントン等ができる環境を整え、心身の健康維持に努めました。市民からの要望に関しては、駐車場を開放し地域の皆さんと合同で行う朝のラジオ体操を継続し実施しました。</p> <p>(8) 10月より法人のホームヘルプサービス事業のサテライト部門として、支援員がヘルパーを兼ねることでヘルパー不足を解消し訪問介護サービスの充実を図ることができました。また、職員がこれまで行えなかった介護サービスを提供することで、介護度が上がった際の退所者数を減らすことを目標に、本来業務に支障がないよう配慮しながら、必要なサービスを提供できるよう努めました。</p> |
| (8)その他 | |

2. 提案内容の達成状況

(指定管理者から提案のあった項目の達成状況)

| 提案内容 | 達成状況 |
|-----------------|---|
| 施設の管理運営体制について | <p>組織としての管理運営体制は、業務体制である全体職員会議(毎月)をはじめ、現場職員会議、個別処遇検討会議、給食会議、事業計画(行事)会議、事故・ヒヤリ検討会議があり、危機管理体制としては安全対策委員会(感染症対策)、身体拘束・虐待防止委員会、防災対策委員会、セキュリティ対策委員会、苦情処理委員会を設置し、職員一人ひとりが責任と役割を持ち情報の共有化を図るとともに、課題の検討に努めました。</p> <p>また、年々入所者の多様化や身体機能低下している方の増加に伴い、夜間の業務量が増えていることから、宿直とその前後の勤務時間の大幅な見直しを行い、試行期間を経てサービスを低下させることなく移行できる新たな勤務体制を整えました。</p> <p>また、職員配置基準を上回る人数を配置し、入所者が安心安全な生活できる環境を継続して対応しました。その他、各福祉事務所からの入所又は緊急ショートステイの依頼に対応できるよう、常に隔離部屋を設け感染対策に準じて柔軟な受入れができる体制を整え、積極的に受け入れをしました。</p> |
| 入所者への生活支援について | <p>入所者の高齢化に伴う身体機能の低下や認知症等が進むなか、自立支援を強化するため日常生活動作評価や本人の強みを引き出すために、アセスメントにより個々の状況把握に努め、本人の意向も取り入れた個別処遇計画を作成し対応しました。また、介護や専門的なリハビリを希望される方には介護保険による各種サービスの情報提供と支援を行い、施設での日常生活が維持できるよう努めました。</p> <p>その他、入所者の自主的な組織である親睦会活動に対し、各種の行事を共催事業として実施したり、食堂当番などの園内活動に積極的に参加していただいた入所者に対し、ボランティア奨励金を支給し役割と自信が持てるよう自立支援に努めました。</p> |
| 施設の安全管理について | <p>建物及び設備に関しては保守、点検、修理、維持管理を計画的に行い、防犯対策では複数回の館内巡視と防犯カメラによる不審者等の確認点検と夜間は巡視員による巡回にて安全確認に努めました。</p> <p>感染症対策においては安全対策委員会を随時開催し、知識や情報の習得と感染の未然防止に努めました。また、食中毒・感染症予防マニュアルを適宜見直し、食中毒等が発生した場合の発生状況の把握や拡大の防止、医療処置等の対応について職員間で共有に努めました。</p> |
| 施設の感染症、衛生管理について | <p>感染対策においては、新型コロナウイルスが5類へ変更となったものの、感染リスクが高いことから引き続きマスクの着用や手指消毒の徹底と毎日の検温を行いました。また、職員から感染する傾向がみられることから、健康管理の徹底や出勤前に定期的な抗原検査の実施と毎日の館内消毒及び換気に努めました。これらにおいては安全対策委員会にて随時協議し、知識や情報の周知と感染の未然防止に努めました。衛生管理については食中毒・感染症予防マニュアルを適宜見直し、最新のノロウイルス等の感染症が発生した場合の拡大防止として、吐物の処理方法を学習し職員間で共有しました。</p> |

| | |
|---------------------|---|
| 緊急時の対応などの危機管理体制について | <p>緊急時マニュアル及び事故防止マニュアルや、事故・ヒヤリ検討会議にて情報を共有し日頃から事故防止に努めました。入所者の事故及びヒヤリハットでは、軽度の事故から報告することにより職員の意識づけや防止に努めています。また職員の確認が取れない事故も多く、分析できない場合は可能な限り共用部に設置された防犯カメラにて再度、状況の確認と分析を行いながらその要因と対策を立て実施しました。</p> <p>その他、感染症対応の不備や職員の連携不足等による反省を踏まえ、誰もがどの場面でも対応できるよう振り返りの勉強会を実施しました。</p> <p>防災訓練では昼夜の火災を想定した訓練を2回実施し、いざという時のために対応できるよう消火器訓練以外に消火栓からの訓練も実施し、課題の追及を行いながら全職員で取り組みました。</p> |
| 職員の教育・研修などの資質向上について | <p>新入職員に対しては新入マニュアルの活用を行い、個人のスキルに応じた計画を立て、振り返り面談を実施しながら丁寧に指導しました。また、無資格者に対し必要な知識や技術を習得するために資格取得の支援と費用の補助をおこないました。</p> <p>人事管理制度により各人が目標を立てることでスキルアップを促し、定期的な上司との面談によりフォローアップを行い、モチベーションや資質の向上に取り組んでいます。これらを通して組織力を高め、入所者への一層のサービス向上に繋がるよう指導を行いました。並行して研修意向調査のもと、個別職員研修計画を作成し、キャリアに応じた研修への計画的な参加機会を設け職員のスキルアップ向上に努めました。受講後には「研修受講振り返りシート」の活用にて自己評価を行い、職員間での情報の共有化を図りました。</p> |

3. 評価

(1)指定管理者による評価

(入所者の処遇・確保)

入所率は前年度より若干ですが増となりましたが、経営的には厳しく養護老人ホームを知っていただくために、改修工事を終えたこともあり新規に施設のパンフレットを作成し、各福祉事務所へ養護老人ホームとしての機能や役割を周知し、訪問活動を行い入所者確保に努めました。引き続き各福祉事務所及び地域定着支援センターや精神科病院等へ訪問活動等を行い、連携と情報収集を図りながら本来のセーフティネットとしての役割を意識し、入所者確保に努めてまいります。

処遇に関しては入所する時点から見守りなどの支援が必要な方が増えており、且つ入所者の高齢化に伴う身体機能の低下や認知症などで、要介護度の判定を受けている方々が定員の約5割となっていることから、引き続き夜勤の体制を継続し施設で少しでも長く生活していけるよう外部の介護保険サービスの活用をしながら、日常生活全般にわたる支援や援助に努めました。また、入所者全員を対象とした個別の処遇計画を作成し、リハビリやレクリエーションなどを実施し認知症予防や寝たきりの状態にならないよう最大限の維持向上に努めました。

(業務改善・経費削減)

新たにクラウド式の記録ソフトを導入し、PCとタブレットを活用して作業のデジタル化を行いました。これにより事務処理の簡素化、及び管理の一元化、情報の共有のしやすさが可能となり、申送りによる残業の撤廃など経費削減が図れました。

令和6年度の正式導入を目指して夜間の宿直体制を大幅に見直しました。宿直者の勤務時間をずらすことで、人数が少ない時間帯の業務を通常業務としてカバーしながら、かつ、日勤の人数を減らすことなく業務を維持できる体制を試験的に導入した結果、職員の数を増やすことなく、課題の解消や時間外の削減ができる体制づくりを行いました。

(2)さいたま市の評価(評価担当課:福祉局長寿応援部高齢福祉課)

総合評価(B) ※A~D

1 項目別の評価

(1)「市民の平等利用、市民サービスの向上、利用促進」に対する評価

- ・入所する時点から見守りなどの支援が必要で、且つ入所者の高齢化に伴う身体機能の低下や認知症などで、要介護度の判定を受けている方々に対し介護保険サービスの導入などにより、日常生活全般にわたる支援や援助に努めていること。また、入所者全員を対象とした個別の処遇計画を作成し、リハビリやレクリエーションなどを実施し認知症予防や寝たきりの状態にならないよう最大限の維持向上に努めていることを評価した。また、中規模修繕工事が完了したことを契機に、パンフレットの刷新や各福祉事務所への周知活動を行った点についても評価した。

(2)「経費の削減」に対する評価

- ・新たにクラウド式の記録ソフトを導入、作業のデジタル化を行ったことにより、事務処理の簡素化、管理の一元化、情報の共有が容易となったことで、時間外勤務などの経費削減を図ったことを評価した。

(3)「適正な管理運営の確保」に対する評価

- ・建物及び設備の保守点検や修繕等、適切に施設の維持管理を実施していること、複数回の館内巡視や防犯カメラによる不審者等の確認点検、夜間の巡視員による巡回など、入所者が安心、安全にを行うことで安全確認に努めていること等を評価した。

2 総合評価

事業計画に沿って、適正に施設運営が行われている。

(3)来年度の管理運営に対する指導事項等

引き続き適切な管理運営に努めて下さい。